

発展する応用生物科学部

応用生物科学部 学部長 福井 博一



昨年末の衆議院選挙に引き続き7月の参議院選挙においても政治的な大きな動きがあり、新聞紙上では経済や国際情勢など様々な変化が報道されているところですが、皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。つつがなくお過ごしのことと拝察いたしております。

本年3月まで学部長としてお務めいただきました金丸義敬前学部長のご退職を受け、4月から学部長を拝命いたしました。これまでの5年間の副学部長の経験を活かし、3名の副学部長、事務長および事務長補佐の助力と教職員の皆様方の力強い支援をいただき、学部の運営を進めております。各務同窓会の皆様からのご支援をどうかよろしく願っています。

昨年まで各務同窓会長を務められると共に岐阜大学連合同窓会の初代会長をお務めいただいた後藤悦男氏に対して、5月31日に開催された岐阜大学創立記念式典において森秀樹学長から感謝状が贈呈されました。

また創立記念式典に先立って、8年にわたる各務同窓会長としてのご功績に対して、応用生物科学部感謝状を贈呈させていただきました。氏には大学法人化に伴う変動期に応用生物科学部そして岐阜大学に対して大きな支援をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。

現在、大学は少子化に伴う受験生人口の激減を踏まえて大きな岐路に直面しています。昨年6月に公表された「大学改革実行プラン」では、国立大学の存在意義の明示と機能分化を提言しています。岐阜大学では、学部から選出された小見山章理事の基で岐阜大学が将来歩むべき方向性について種々協議が行われ、「地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）」が採択されました。大学COC事業では、大学が自治体と連携して地域を志向した教育・研究・地域貢献を進め、地域コミュニティの中核的機能を強化することが掲げられています。大学COC事業では地域との密接な連携が不可欠である

ことから、各務同窓会の皆様のご協力の基、同窓会との連携を一層強固にしていきたいと考えています。また大学COC事業では、生涯学習の拠点や社会の知的基盤としての役割を果たすことも求められています。同窓会の皆様が自由に大学を活用いただける体制作りを整えていきたいと思っています。

文科省から提示された「大学改革実行プラン」に関連して、昨年8月に全国の国立大学のすべての学部に対して「ミッションの再定義」と称して特色と強みを明示し提出するよう通達がありました。先行して教育学部、工学部、医学部が評価を受けましたが、それぞれ厳しい指摘があったと聞いております。応用生物科学部は本年8月に資料を提出したところですが、岐阜高等農林学校設立以来の歴史を持ち、全国唯一の応用生物科学部として高度専門職業人の育成を目指して教育、研究、社会貢献に取り組み、地域に根ざした学部としての誇りを持つて関係書類を取り纏め提出いたしました。現段階ではまだ裁定を受けるには至っていませんが、応用生物科学部の存在意義は高く評価されるものと確信しています。

に、学生が相互に移動して実習を受けるなど、これまでにない新たな経験の基で、多少の試行錯誤を伴いながらも着実に一步を踏み出しました。この経験は、獣医学以外の他の2課程においても、連合農学研究科博士課程と共に連携している静岡大学農学部との教育連携など、近い将来に必ず役に立つものと思います。

応用生物科学部では学生の英語能力の向上を図るために、学部独自の「TOEICスコアアップ特別講座」を（例）ECCとの連携で本年度から新たに開講しています。特別講座の受講は任意で有償にもかかわらず5月からの前期講座には130名の学生が受講し、着実に英語力の向上を図ることができました。現在、10月からの後期特別講座が開講されています。本特別講座の開講に当たっては、会報巻末に記載されています各務同窓会員の皆様からの寄付金から支援をいただきました。また、中国広西大学とのダブルディグリープログラム（両大学での修士学位授与プログラム）の学生に対しても学業支援のための奨学金の支援をいただいております。この場をお借りして深く感謝申し上げます。

このように、応用生物科学部は着実に教育研究の成果をあげております。今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



會長挨拶

水野 隼人 (C大15)



全国各地で活躍の同窓生のみなさまには、ご健勝のこととお喜び申し上げます。

平素は各務同窓会への格別のご協力とご指導を賜り、厚く御礼申し上げます。

今年は学部生203名、研究科99名の302名が新たに巣立ちました。

先輩諸兄の卒業時とは社会情勢も経済状況も大きく変化している今日、各地でのご高配のほどよろしくお願い申し上げます。

さて、今年は岐阜大学創立64年。

5月31日に行われた創立記念式典で森秀樹学長から「岐阜大学は地域・産業に貢献することが大切であり、変化を遂げることが必要です。」と訴えられました。

このことは私たち同窓会の運営にも大いに教訓になる指摘と思いました。

同窓生の状況をアバウトですが10年前と比べてみますと、卒業・修了生の数はそんなに変化しておりません。

就職先（県別）は、愛知（約70名）岐阜（約40名）東京（約20名）と上位は変わらず、全国約24都道府県となっています。

大きく変化しているのは、女性の入学生が少しずつですが毎年増えていることです。今年度については、同窓会長賞受賞者5名が全員女性でした。

全国の同窓会支部もこの事実を正しく見ておくことが、これからの運営で大切だと思います。

昨年10月、岐阜駅前37階ビル（歩い

て5分)の4階に岐阜大学サテライトキャンパスが開設され、岐阜での教育・研究・地域社会貢献の新たな活動拠点ができました。(同窓会総会等にも利用可)

今年の大学の創立記念講演に織田信長のお話がありました。岐阜では信長居住の遺跡発掘があり、話題になっています。

日本での山城、居住の建築、樂市樂座を通した地域産業振興、などなどです。

私たちの暮らしの変化に対応する活力・活性が大切なことを教えています。

私たちの暮らしのまわりにはTPPをはじめ困難な社会状況があります。

岐阜大学の建学および同窓会設立の
 目的である、「学び・究め・貢献する」
 の理念に基づき、変化に対応しそれぞ
 れの地でのご活躍とご健勝を祈念いた
 します。

幹事長挨拶

幹事長 荒幡 克己

平成25年度の各務同窓会幹事長を任命致しました荒幡克己と申します。従来、同窓会幹事は、各務同窓会職員（岐阜大学旧農学部卒業生）で現職の岐阜大学の教員の中から選出されてきました。が、昨年度幹事長からは、こうした枠に限定せず、全教員の中から選

出していく方針となりました。この方針の下で、昨年の丸尾幹事長に続き、私で二代目ということとなります。微力ながら各務同窓会発展のために貢献できれば、と思っております。

既に春から活動を開始しまして、半年が過ぎました。この間、幾つかの支部の総会等にお招きいただき、お話を

ても感じられますのは、諸先輩方の社会における御活躍ぶりです。その存在を知らしめるだけでも、現役の学生にとつては何よりもかけがえの無い励みになることと思います。現に、全学共通教育では、こうした趣旨から「私は社会でこう生きてきた」という講義を設定し、各学部の間際会を通じて社会的に御活躍されている諸先輩を御紹介したいただき、その人生談を聞く機会を用意しております。平成24年度は、我が各務同窓会からも、後藤悦男前各務同窓会会長を始めとして計四名の方に講師を務めていただきました。今後とも、この講義は続きますので、引き続き皆様方に講師役をお願いすることとなりますので、よろしくお願い申し上げます。

さて、本学部の前身である「岐阜県立等農林学校」に遡ると、本学部は、在本学を構成する各学部の中でも、誇るべき伝統を有しておりますが、既に前号でお伝えしておりますように、昨年4月、その「岐阜県立等農林学校校歌」が、岐阜大学全体の共通の「愛唱歌」として選定されました。誠に喜ばしい限りです。

私は、本年各務岡窓会幹事長を拝見する以前から、この校歌にはたいへん関心を持ち、戦前の旧制高校寮歌等と比較して、特に、その中の三大寮歌と言われている、旧制一校の「嗚呼玉杯に花受けて」、旧制三校の「紅ゆれる丘の花」、札幌農学校恵迪寮歌「都ぞ弥生」と比べても遜色のない素晴らしい歌と思っております。私の専門が、この歌を作詞されました、大正15年当時の岐阜高等農林学校教官、鈴木栄太郎氏の農村社会学と近い農業経済学ということもあり、また、諸先輩方は御存知の方が多いものの、現役学生等比較的若い世代では大正15年という時代背景等がわからなくなってきたい

ることもあり、僭越ながらこの場を借りて、歌の意義等を改めて御紹介させていただきます。

この歌は、戦前の旧制高校寮歌等の中では、珍しい自由を謳歌する明るいなが歌詩があります。曲もさることながい。その第一の理由は、時代背景と思维です。この歌ができた大正15年というのは、明治以来の富国強兵から太平洋戦争に至る中で、唯一軍縮が進められた時代です。欧米との協調外交が当時の基本方針で

あり、当時、「街中を軍服で歩くのが憚られる」政治態度であったと言われております。零団気であったと言われる時代の時代であり、二大政党による憲政交代が行われ「大正デモクラシー」が実現していた時代です。経済は、大正12年の関東大震災（GDPの1/3が失

われた」から復興しつつあり、景気も回復しつつあった時代です。更に、文面でも浅草の喜劇が流行し、街には「モボ」（モダンボーイの略）や「モガ」（モダンガールの略）が闊歩していた時代です。この時代の前の寮歌等は、日露戦争の勝利等でナショナリズムが高揚した時期であり、そうした国威発揚的な内容が主流でした。また、

には、世界恐慌が起こり、昭和6年には満州事変が起こり、世は軍国主義この時代からわずか3年後の昭和4年には、世界恐慌が起こり、昭和6年には満州事変が起こり、世は軍国主義色へと進んでいき、寮歌等もそういうものになっていきました。大正15年というのは、こうした中で、つかの間で、自由を謳歌した時代です。岐阜高等農林学校の「凜呼真摯」、「自化自育」

歌に影響を与えたもう一つの要因は、作詞者、鈴木栄太郎氏です。当時の学者の留学先は、ヨーロッパ、とりわけドイツがメインでした。こうした中で、鈴木氏は、珍しくアメリカを選

びました。岐阜高等農林学校の創設に
札幌農学校出身の新渡戸稲造氏が深く
関わったこともあり、その後も、本学

の教育では、札幌農学校の関係者による、アメリカ流のプロテストンティズムに基く教育が基本であったものと思われます。こうした中で、アメリカから帰国後、直ちに岐阜高等農林に赴任した鈴木氏は、校歌の作詞に取り掛かりました。その歌詩は、当時の旧制高校寮歌等を基準とすれば、かなり斬新で新しい息吹を感じさせるものがある。

ります。例えば、校歌の二番、三番で「おお美に自然児」、「おお美に大御宝」というように「おお」という言葉が入っています。通常寮歌では、こうした場合、「嗚呼（ああ）」を使います。因みに、前述の三大寮歌は全て「嗚呼」を使っています。そもそも日

本人の感性には、「ああ」がフィットするようであり、戦後も石川さゆり「ああ津軽海峡冬景色」、松田聖子「ああ私の恋は」というように、日本の歌は「ああ」が基本です。一方、アメリカでは、"Oh! my darling, Oh! my darling, Oh! my darling, Clementine!" や "Oh! Susanna, Oh don't you cry for me" のように、「おお」が基本です。

鈴木氏は、かなり意識して、この歌に新鮮味を持たせようとしたと考えられます。また、三番の「人世の礎」も、「じんせい」ではなく「ひとよ」と読ませることは、原譜にこのふりがながつけられており確認できますが、これも実は型破りです。そもそも、現在でも広辞苑を引くとわかるように、この

言葉は「じんせい」と読むのが正しく、「ひとよ」という読み方は例示されておりません。一校寮歌等でも「人世」は「じんせい」と読みます。前述の札幌農学校の「都ぞ弥生」では、「の」を入れて「人の世」を「ひとよ」と読ませる一節がありますが、人世をそのまま「ひとよ」と読ませるのは

各務同窓会報

平成二十五年度
各務同窓会代表委員会報告

は、大変珍しいものです。
これらの工夫の中から、アメリカ流の自由主義思想の下で「自化自育」という本学の教育方針を歌に体现しようとした、鈴木氏のこの歌にかけの思いが伝わってくるような気がします。逆

平成二十五年度各務同窓会代表委員会は、六月一日（土）正午から、長良川河畔のホテルパークで開催されました。東海地方は既に梅雨入り宣言が

出されていましたが、当日は天気にも恵まれ、初夏の新緑が美しい中、多くの方に参加いただきました。北海道から島根県まで、三十五支部三十七名の代表委員の方々に加えて、役員及び幹事等十七名を合わせて、五十四名の参加をいただきました。

代表委員会は水野隼人会長の挨拶で始まり、前日の岐阜大学創立六十四周年記念日行事で後藤悦男前会長に感謝状が贈呈された旨の紹介がありました。続いて、平成二十五年度の幹事長、幹事ならびに監事の紹介後、荒幡克己幹事長から就任の挨拶があり、岐阜高等農林時代からの

校歌「我等多望の春にして」が大正デモクラシーの時代に作られた経緯の紹介がありました。続いて、議長に岐阜県職各務同窓会支部代表委員の平

工孝義氏が選出され、議事に入りました。

第一議案は、平成二十四年度事業・決算報告及び会計監査報告です。初めに、丸尾幸嗣前



に言うならば、当時としては、極めて斬新であった「我等多望の春にして」であったからこそ、現代の若者にも受け入れられる愛唱歌として選定されたのではないかとも思われます。
大変長くなりましたが、こうした素

幹事長から事業報告が、次いで大場恵典前会計担当幹事から決算報告がありました。更に、景山幸二監事から会計監査報告があり、会計が適切に執行されていることを確認した旨の報告がありました。本議案は、原案通り承認されました。

第二議案は、平成二十五年度事業計画（案）で、村瀬哲磨事業担当幹事から説明がありました。会報（第九十四号）の発行を本年十一月中旬に予定していること、平成二十六年三月二十五日の卒業式における同窓会長表彰は、学部三名、大学院二名とすることの提案があり、また事後報告として平成二十五年度四月七日の入学式・保護者懇談会で同窓会入会の勧誘活動を行ったことについての報告がありました。審議の結果、同窓会の勧誘活動を卒業前にしてはどうかという意見が出され、今後検討することを踏まえて原案は承認されました。なお、同窓会員名簿は今後六年おきに発行する予定です。

第三議案は、平成二十五年度予算（案）です。今村彰宏会計担当幹事から説明があり、承認されました。

その他の議案として、二点の報告、提案がありました。第一は、荒幡幹事長より、不明支部の福島県支部、長野県南信支部について、現在事務局で統合を含めて検討中であるとの経過報告が紹介

晴らしい校歌のある伝統を持つ、各務同窓会幹事長を務めさせていただくことは、大変光栄であります。任期中、精一杯の努力をして会の発展に役立ちたいと思います。宜しくお願い申し上げます。

されました。第二は、丸尾前幹事長より、寄附金についての申し合わせ、決算報告についての提案があり、寄附金申込み手続きが簡素化されたことの紹介がありました。質疑応答に入り、寄附金申込書については会報配送時に同封して送るとの説明があり、繰越金は学部運営会議で有効に利用する案を立てていく方向で了承されました。

全体を通じて、支部代表委員から、新入支部会員の掌握状況が悪いので、卒業時の会員リストを支部に配付してはどうかとの提案があり、事務局として今後検討していくこととし、議事が終了しました。

最後に名誉会長の福井博一応用生物科学部長から挨拶がありました。初めに、学生のマナーが他学部に比べて非常に良く、凛々真摯の精神を受け継いでいるとの紹介がありました。続いて、今年度から発足した鳥取大学との共同獣医学科についての説明があり、最後に、議事で話題になった寄附金の有効利用について、学生の英語教育への活用や留学生への支援等を検討しているとの説明がありました。

今回の代表委員会は、一時間半に渡り活発・真剣な議論がなされました。これもひとえに、皆様の同窓会に対する熱い思いの表れであったと感じています。なお、同窓会事務局へのご質問・連絡等がありましたら、058-1293-1341（15時30分以降は留守番電話になります）。E-mail: ob-abs@gifu-u.ac.jp までご連絡をお願いします。

平成24年度支部総会開催状況

支部名	期日	出席者
東京E科会	24.04.23	松本 康夫
愛知県各務会・愛知各務会	24.05.26	清水 英良
愛知県高等学校教員	24.06.23	前澤 重禮
岐阜県高等学校	24.06.23	高見澤一裕、小山博之
岐阜	24.06.24	丸尾 幸嗣
石川県	24.07.07	丸尾 幸嗣
長野北信	24.07.14	鈴木 正嗣
富山県	24.07.21	吉崎 範夫
愛知県職員林務関係同窓会	24.07.27	向井 譲
愛知県職員農業関係各務同窓会	24.08.03	福井 博一
兵庫県	24.10.20	石田 秀治
江南科	24.11.03	木村 正信
P	24.11.10	金丸 義敬
中濃	24.11.10	松本 康夫
飛騨	24.11.17	後藤 清和
東京E科現役会	25.02.06	千家 正照
岐阜県職	25.02.09	会長、金丸義敬、荒幡克己、宮川修一、村瀬哲磨
岐阜市役所	25.02.15	福井 博一
東海農政水機構	25.03.05	西村 直正
岐阜大学	25.03.15	会長、副会長
三重	25.03.16	西村 真一

平成25年度岐阜大学各務同窓会役員

名誉会長	福井 博一	
会長	水野 隼人	(C大15)
副会長	矢井 治夫	(A大7)
	清水 正巳	(F大10)
	伏見 知彦	(C大18)
	北川 精一	(V大18)
	板津 敏彦	(E大12)
	小森 利八郎	(N大10)
相談役	辻 和信	(P大5)
	杉山 幹夫	(M大1)
	岩井 威道	(V大1)
	新藤 秀逸	(SP大1)
	中村 孝雄	(N大7)
	後藤 悦男	(V大2)

平成25年度幹事長・幹事及び監事

幹事長	荒幡 克己	(応用生命科学課程)
幹事	(庶務・幹事代理)	清水 英良 (生産環境科学課程)
	(事業)	村瀬 哲磨 (共同獣医学科)
	(会計)	今村 彰宏 (応用生命科学課程)
監事	丸尾 幸嗣	(共同獣医学科)
	大場 恵典	(共同獣医学科)

平成24年度各務同窓会決算報告

自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日

1. 一般会計
4. 資産現在高
2. 基本金特別会計
5. 資産保管状況
3. 名簿特別会計

1. 一般会計

(1) 歳入の部 (単位：円、小文字は内訳)			
勘定項目	今年度予算	決算額	比較増△減額
1. 会 費	2,520,000	1,917,700	△ 602,300
入 会 金	2,400,000	1,860,000	△ 540,000
年 会 費	120,000	57,700	△ 62,300
2. 利 子	368	269	△ 99
3. 雑 収 入	540,000	495,050	△ 44,950
4. 基本金特別会計より繰り入れ	3,230,000	3,230,000	0
当期歳入合計 (A)	6,290,368	5,643,019	△ 647,349
前年度繰越収支差額	78,032	78,032	0
歳入合計 (B)	6,368,400	5,721,051	△ 647,349

(2) 歳出の部

勘定項目	今年度予算	決算額	比較増△減額
1. 事 務 費	2,181,000	1,968,659	△ 212,341
消 耗 品 費	10,000	7,988	△ 2,012
人 件 費	1,800,000	1,796,846	△ 3,154
通 信 費	30,000	24,990	△ 5,010
旅 行 費	36,000	36,000	0
終身会費返金	300,000	100,000	△ 200,000
雑 費	5,000	2,835	△ 2,165
2. 会 議 費	1,210,000	791,493	△ 418,507
代 表 委 員 会 費	200,000	156,290	△ 43,710
代 表 委 員 会 旅 費	1,000,000	632,700	△ 367,300
役 員 会 費	10,000	2,503	△ 7,497
3. 事 業 費	2,250,000	2,108,091	△ 141,909
会 報 等 印 刷 費	600,000	600,000	0
会 報 郵 送 費	900,000	821,670	△ 78,330
雑 費	700,000	640,421	△ 59,579
ホームページ管理費	10,000	10,000	0
同窓会長賞費	40,000	36,000	△ 4,000
4. 名簿関係費	0	0	0
発 送 費	0	0	0
5. 慶 弔 費	50,000	29,311	△ 20,689
6. 支部総会派遣費	400,000	424,765	24,765
7. 卒業・修了祝賀会賛助費	150,000	150,000	0
8. 予 備 費	110,000	101,419	△ 8,581
当期歳出合計 (C)	6,351,000	5,573,738	△ 777,262
当期収支差額 (A) - (C)	△ 60,632	69,281	129,913
次期繰越収支差額 (B) - (C)	17,400	147,313	129,913

2. 基本金特別会計

(1) 歳入の部 (単位：円、小文字は内訳)			
勘定項目	今年度予算	決算額	比較増△減額
1. 終 身 会 費	4,900,000	3,720,000	△ 1,180,000
新 入 生 分	4,800,000	3,700,000	△ 1,100,000
卒 業 生 分	100,000	20,000	△ 80,000
2. 雑 収 入	0	0	0
3. 利 子	42,331	29,540	△ 12,791
当期歳入合計 (A)	4,942,331	3,749,540	△ 1,192,791
前年度繰越収支差額	72,167,669	72,167,669	0
歳入合計 (B)	77,110,000	75,917,209	△ 1,192,791

(2) 歳出の部

勘定項目	今年度予算	決算額	比較増△減額
1. 一般会計への繰入	3,230,000	3,230,000	0
2. 振 込 料	5,000	630	△ 4,370
3. 名簿特別会計への繰入	12,140,000	12,901,645	761,645
当期歳出合計 (C)	15,375,000	16,132,275	757,275
当期収支差額 (A) - (C)	△ 10,432,669	△ 12,382,735	△ 1,950,066
次期繰越収支差額 (B) - (C)	61,735,000	59,784,934	△ 1,950,066

3. 名簿特別会計

(1) 歳入の部 (単位：円)			
勘定項目	今年度予算	決算額	比較増△減額
1. 基本金特別会計より繰入	12,140,000	12,901,645	761,645
2. 名簿売上金	10,000	0	△ 10,000
3. 広 告 料	900,000	360,000	△ 540,000
4. 利 子	0	25	25
歳入合計	13,050,000	13,261,670	211,670

(2) 歳出の部

勘定項目	今年度予算	決算額	比較増△減額
1. 名簿印刷費	8,000,000	8,301,570	△ 301,570
2. 編集荷造費	600,000	501,885	98,115
3. 郵 送 費	3,350,000	3,356,730	△ 6,730
4. 調 査 費	650,000	660,300	△ 10,300
5. 予 備 費	450,000	441,185	8,815
歳出合計	13,050,000	13,261,670	△ 211,670

4. 資産現在高

(単位：円)		
項 目	年度始現在高	現在高
1. 一般会計	78,032	147,313
2. 基本金特別会計	72,167,669	59,784,934
合 計	72,245,701	59,932,247

5. 資産保管状況

(単位：円)

項 目	一般会計	基本金会計
1. 現 金	13,565	
2. 普通預金		
大 垣 共 立 銀 行	691	
十 六 銀 行	94,294	3,387,287
三井住友信託銀行		476,444
三菱UFJ信託銀行		3,024,029
郵 便 局	38,763	
み ず ほ 銀 行		5,474,604
3. 定期定額貯金		
大 垣 共 立 銀 行		9,602,154
十 六 銀 行		21,820,416
三井住友信託銀行		10,000,000
三菱UFJ信託銀行		6000000
4. 振替貯金	0	0
合 計	147,313	59,784,934
総 計		59,932,247

平成25年度各務同窓会予算

収支予算書 (平成25年4月1日～平成26年3月31日まで)

1. 一般会計

(1) 歳入の部 (単位：円、小文字は内訳)			
勘 定 項 目	予 算 額	前年度予算額	差 異
1. 会 費	2,340,000	2,520,000	△ 180,000
入 会 金	2,220,000	2,400,000	△ 180,000
年 会 費	120,000	120,000	0
2. 利 子	485	368	117
3. 雑 収 入	540,000	540,000	0
4. 基本金特別会計より繰り入れ	3,230,000	3,230,000	0
当期歳入合計 (A)	6,110,485	6,290,368	△ 179,883
前年度繰越収支差額	147,313	78,032	69,281
歳入合計 (B)	6,257,798	6,368,400	△ 110,602

(2) 歳出の部

勘 定 項 目	予 算 額	前年度予算額	差 異
1. 事 務 費	2,100,000	2,181,000	△ 81,000
消 耗 品 費	10,000	10,000	0
人 件 費	1,800,000	1,800,000	0
通 信 費	30,000	30,000	0
旅 行 費	36,000	36,000	0
終身会費返金	220,000	300,000	△ 80,000
雑 費	4,000	5,000	△ 1,000
2. 会 議 費	1,205,000	1,210,000	△ 5,000
代 表 委 員 会 費	200,000	200,000	0
代 表 委 員 会 旅 費	1,000,000	1,000,000	0
役 員 会 費	5,000	10,000	△ 5,000
3. 事 業 費	2,250,000	2,250,000	0
会 報 等 印 刷 費	600,000	600,000	0
会 報 郵 送 費	900,000	900,000	0
雑 費	700,000	700,000	0
ホームページ管理費	10,000	10,000	0
同窓会長賞費	40,000	40,000	0
4. 名簿関係費	10,000	0	10,000
発 送 費	10,000	0	10,000
5. 慶 弔 費	50,000	50,000	0
6. 支部総会派遣費	430,000	400,000	30,000
7. 卒業・修了祝賀会賛助費	150,000	150,000	0
8. 予 備 費	50,000	110,000	△ 60,000
当期歳出合計 (C)	6,245,000	6,351,000	△ 106,000
当期収支差額 (A) - (C)	△ 134,515	△ 60,632	△ 73,883
次期繰越収支差額 (B) - (C)	12,798	17,400	△ 4,602

2. 基本金特別会計

(1) 歳入の部 (単位：円、小文字は内訳)			
勘 定 項 目	予 算 額	前年度予算額	差 異
1. 終 身 会 費	4,480,000	4,900,000	△ 420,000
新 入 生 分	4,440,000	4,800,000	△ 360,000
卒 業 生 分	40,000	100,000	△ 60,000
2. 雑 収 入	0	0	0
3. 利 子	15,248	42,331	△ 27,083
当期歳入合計 (A)	4,495,248	4,942,331	△ 447,083
前年度繰越収支差額	59,784,934	72,167,669	△ 12,382,735
歳入合計 (B)	64,280,182	77,110,000	△ 12,829,818

(2) 歳出の部

勘 定 項 目	予 算 額	前年度予算額	差 異
1. 一般会計への繰入	3,230,000	3,230,000	0
2. 振 込 料	5,000	5,000	0
3. 名簿特別会計への繰入	0	12,140,000	△ 12,140,000
当期歳出合計 (C)	3,235,000	15,375,000	△ 12,140,000
当期収支差額 (A) - (C)	1,260,248	△ 10,432,669	11,692,917
次期繰越収支差額 (B) - (C)	61,045,182	61,735,000	△ 689,818

学園だより

課程等の近況

❖ 応用生命科学課程

同窓生の皆様には、益々ご健勝にてお過ごしのこととお喜び申し上げます。

応用生命科学課程の近況をご報告いたします。

本年3月には卒業生87名を送り出し、そのうちの40名が大学院修士課程に進学しました（他大学院への進学者9名を含む）。資源生命科学専攻の修士課程修了者は49名で、そのうち2名がさらなる研究の研鑽を積むために博士課程に進みました。一方、4月には、本課程に80名の新入生および「応用生命科学課程」の3年次編入で5名の学生を迎え入れました。また、大学院修士課程（本年度より応用生命科学専攻）に37名が入学しております。

教員の動向としましては、長年、大学あるいは学部において教育、研究、管理運営に力を注いでいただきました金丸義敬教授、木曾真教授、棚橋光彦教授が定年退職されました。ただし、木曾先生は学長の要請を受けて、ICeMS担当の特任教授として研究を続けておられます。一

方、新しい血として、分子生命科学コースに京都大学大学院より寺本好邦氏が准教授として、ICeMS担当の期限付き助教であった今村彰宏氏が助教として赴任されました。また、上野義仁准教授が教授に、中村浩平助教が准教授にそれぞれ昇任されました。食品生命科学コースには、東

北大学医学系研究科の特任助教であった北口公司氏が助教として赴任されました。中川智行准教授が教授に昇任されました。各先生方の今後の活発な教育研究活動を期待しているところです。

山内亮教授は引き続き副学部長（総務・財務担当）に就任されて、学部運営に大きな役割を果たしておられます。鈴木文昭教授は、再度連合農学研究科長に選出され、博士課程教育の充実・発展のため日々奮闘していただいております。また、高見澤一裕教授は、再編された重要な組織である研究推進・社会連携機構の副機構長として社会との連携に力を注いでおられます。

なお、本年度末をもって定年退職される教員はございません。学生の表彰に関しましては、24年度卒業・修了時に、松本瑞樹君（学

部長表彰）、守屋彩子君（同窓会長表彰）、田中友紀君（研究科長表彰）、廣瀬麻衣君（同窓会長表彰）が表彰を受けました。また、随時の表彰制度で廣瀬麻衣君、田中裕真君、加藤孝一君、大野翔平君、田中友紀君、田代晋也君（いずれも研究科長表彰）の6名が学会での活躍に対する表彰を受けております。

「鉄は熱いうちに打て」ということで、本年度より、課程の1〜3年生に対して、教員や大学院生が専門的な研究を紹介、啓蒙する取り組み「オープンアカデミー」が始まりました（6月29日（土））。現役で活躍している卒業生を招き、勉学と仕事の関係などの話もしていただきました。我々の予想以上に学生たちは興味を持ったようでした。将来、彼らが自主的に勉学、研究に励むようになることを期待しております。また、当課程の優れた教育研究の環境を全国の学生に適用するべく、岐阜大学サテライトキャンパスにおいて、「大学院進学説明会」を5月19日（日）に開催いたしました。初年度であったにもかかわらず、学内外からの学部生15名の参加がありました。今後、大学院の充実に資するものと思っております。

課程教員一同、上記のような取り組みも含めて、有為な学生を世に送り出せるよう誠心誠意努めておりま

す。同窓生各位には今後とも、種々ご支援を賜りますようお願いいたします。また、大学、学部は自立に近づくため、「産官学協同」や「地域貢献」を大いに推進する必要があります。この点につきましても同窓生の皆様方からの暖かい激励や支援に加えて、力強い連携も心より願っております。

最後になりましたが、皆様方のご健勝とご活躍をお祈りいたします。（後藤清和）

❖ 生産環境科学課程

生産環境科学課程の近況をご報告申し上げます。本年3月、本課程から84名が卒業し、内41名（他の大学院を含む）が修士課程へ進学いたしました。また本研究科第4期の修了生として生物環境科学専攻から50名を送り出し、内4名が博士課程へ進学いたしました。3月の卒業・修了祝賀会においては、卒業生では山下有希さんが学部長表彰、島田かなえさんが同窓会長表彰を受け、修了生では時澤睦朋君が学長表彰、ファントゥーハさんが研究科長表彰、権田綾さんが同窓会長表彰を受けました。

本年4月、本課程に新入学生85名（3年生編入学生5名を含む）を迎えました。大学院は新年度から生産環境科学専攻と改称し、昨年度入学

生までの2コース5教育研究指導単位から応用植物科学、応用動物科学、フィールド生態学、生態環境管理の4コースとなり、5年間続いた国際農環境科学の名称は新入生からはなくなりました。この新専攻に本年は49名を迎えて、活発な教育研究活動が行われています。

次に各コースの動向についてお知らせいたします。

応用植物科学コースは13名の教員からなり、コース長は荒井聡教授です。山本義治先生（植物分子生理学）は教授に昇格されました。管理運営面では福井博一教授が本年度から学部長となり、学部の運営に尽力されております。また田中逸夫教授は引き続き岐阜フィールド科学教育研究センター長の任にあたっています。

松井勤教授は大学院委員長として大学院教育の運営にあたっています。研究活動の成果としては修士課程の安佐井美夏さんが小林佑理子助教、小山博之教授の指導のもと、日本土壤肥料学会2012年度鳥取大会においてポスター賞を、また、4年生の速水菜月さんが山本義治教授の指導のもと第4回日本光合成学会でポスター賞を受賞されました。

応用動物科学コースは10名の教員からなり、コース長は土井守教授です。本年3月末に伊藤慎一教授、大谷滋教授、川島光夫教授、吉崎範夫

各務同窓会報

教授が退職になりましたが、4月には山本朱美准教授（動物栄養科学、動物栄養学研究室）が財団法人畜産環境整備機構畜産環境技術研究所より、また日巻武裕助教（動物工学、動物発生学研究室）が鹿児島大学大学院農学研究科より着任されました。研究活動の成果として、楠田哲士准教授及び土井守教授が第18回日本野生動物医学会大会でベストポスター賞を受賞されました。

環境生態科学コースは16名の教員からなり、コース長は千家正照教授です。平松研先生（環境水理学）は教授に、大西健夫先生（水文学）、加藤正吾先生（森林生態学）は准教授にそれぞれ昇格されました。管理運営面では小見山章教授が引き続き理事・副学長（学術研究・情報・国際戦略担当）として大学の運営に尽力されており、向井譲教授が副学部長（企画・評価担当）として学部の運営に尽くされています。また土田浩治教授は教学委員長として学部教育の運営にあたっておられます。研究活動の成果として小見山章教授、加藤正吾准教授および大学院学生の中川雅人君が日本森林学会論文賞を受賞されました。

（宮川修一）

◆共同獣医学科

共同獣医学科の現況をお知らせします。平成25年4月に岐阜大学応用生物科学部・鳥取大学農学部共同獣医学科が発足し、連携教育をさらに発展させた共同教育が始まりました。今年4月には共同獣医学科の新入生を迎えています。共同学科の1年生は、テレビを用いた遠隔授業、教員移動さらに学生移動による授業を交えて、モデルコアカリキュラムに沿った教育が実施されます。さらに共用試験、参加型臨床実習等が行われます。学生も教職員も大変ではありませんが、2大学の60名を超える教員による獣医学教育をさらに充実できるように、努力をしていきたいと考えています。

獣医師国家試験では、現役生32名全員が合格しました。久しぶりの快挙です。今年の卒業生の進路は、小動物診療が多く（43.8%）、次いで公務員（15.6%）は変わりませんが、産業動物臨床3名と大学院進学5名が目立ちました。平成24年度の優秀卒業生は、獣医師会長賞が辻英里子さん、学部長表彰が祖父江由希さん、同窓会長表彰が鈴木万祐子さんでした。また今年度の在学生学長表彰は4年生の山田香織さんと松岡沙樹さんの2名です。

教員につきましては、今年度末に

動物病院の鷲巣誠教授が退職されます。岐阜大学の在籍期間は4年ですが、教育研究と臨床に大きく貢献していただきました。お礼申し上げます。いっぽう、4月に連合大学院の浅井鉄夫教授が赴任されました。生理学志水先生、薬理学海野先生と同級生であり、3名が揃うのは珍しいことです。産業動物臨床学教授人事が進行中です。

これまでの獣医学課程から共同獣医学科に名称は変わりましたが、獣医学教育を継続することは変わりません。共同獣医学科一丸となつて激動的な獣医学教育に対応していきまので、皆様のご支援・ご鞭撻をお願いします。詳細は共同獣医学科ホームページのニュースレター第6号をご覧ください。最後になりましたが、皆様のご健康とご活躍を祈念します。

（北川 均）

◆連合農学研究科

卒業生及び修了生の皆様には、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。本研究科は、平成3年の設置から23年目を迎えました。昨年度の学位授与者数は課程博士23名（外国人留学生15名）で、論文博士の審査申請はありませんでした。学位授与者の総数は、課程博士が606名

（外国人留学生301名）と論文博士が137名（外国人18名）になりました。本年度の入学学生は定員20名に対して17名（外国人10名）です。昨年度から、博士論文研究の進捗状況を、半年毎の中間発表で確認し、3年間での学位取得へと導く教育体制が整い施行しています。80人を超す学生が一定期間内に中間発表を行います。その運営は学生主体で行い、研究進捗状況の確認やアドバイスは3名の指導教員が中心で進めています。学生達は標準修業年限3年での学位取得を目指してベストを尽くしています。学位取得後のキャリアパス支援は経験豊富な杉本勝之客員教授が、昨年度から引き続き対応しており、少しずつその効果が表れています。本研究科から発信する電子ジャーナル（Reviews in Agricultural Science: <http://www.agrsclj/ras/issue/current>）に現在4つの総説記事が掲載されました。岐阜連農を中心とした12大学からなる、南部アジア地域における農学系博士教育連携コンソーシアム（AGCU2）のプラットフォームとして、世界の農学系研究と教育の発展に貢献していくものと期待しています。また、本研究科の教育・研究の充実のために、国内外の研究機関や大学（研究科）等との連携も推進しています。今年度は連農係の職員と関連教員でインドネ

シアの2つの協定大学を訪問し、教員と学生の交流についての環境整備確認と相互理解を深めてきました。これら一連のAGCU2活動については本研究科HP (<http://www1.gifu-u.ac.jp/~rendai/index.html>) とUGSAS-GU NEWSLETTER 2013をご覧ください。最後に、同窓生の皆様のご健康とご活躍をお祈りいたします。

（鈴木文昭）

◆連合獣医学研究科

各務同窓会の皆さまには、ご健勝のこととお喜び申し上げます。さて昨年度の学位授与者は、課程博士30名、論文博士7名と多く、この数年、他獣医学研究科に比べて多くの研究者を送り出しております。平成25年度の入学者数も現在21名であり、本年10月からの秋入学生を加えたと30名近くになることが予想されます。多くの若者が連合獣医学研究科を選択してくれていることは嬉しい限りです。

この数年、研究科では外部資金を活用して国際学会発表や海外研修の機会を多く設けてグローバル人材の育成に努力してまいりました。今年度からは、研究科の運営経費にて、同様な趣旨で海外研修プログラムを展開する予定です。また、その一方

各務同窓会報

で、研究者と若手教員を育成することを目的に「若手研究者育成プログラム」を立ち上げて、学生の自主的な発想と企画を基盤とした新事業を実施することに致しました。本企画は、学生の自主企画を基本とし、研究科はそれを支援する形で実施する予定です。他研究科との連携も含まれております。本プログラムの実施が、研究者としての自立性を育成する機会になればと期待しております。今後とも、連合獣医学研究科にご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(石黒直隆)

◆岐阜フィールド科学
教育研究センター

各務同窓会員の皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。本年度も応用生物科学部学生対象の各種実習、他学部学生対象の講義・実習、学外の方への公開講座、各種見学対応などに活発な活動が続いております。公開講座としては引き続き「家庭菜園の基礎理論と実際」「食と緑と命の学校」「冬山を歩こう」などを企画、開催中です。また本年度より新たに動物系公開講座「食べられる生命―肉と卵の科学と実際―」を実施することとなりました。

柳戸農場では障害者就労支援の一環

として本年度も四名の方が技術職員とともに働いているほか、三名のボランティアの方に来ていただいております。特別支援学校生の受け入れは昨年まで柳戸農場、美濃加茂農場で実施していましたが、本年度より新たに位山演習林でも受け入れる準備を行っています。教育機能充実のための施設整備に関しては、本年度は美濃加茂農場の堆肥舎改修工事が行われます。また、柳戸農場の畜舎建物の全面的な改修と設備要求に向けた二十六年年度概算要求、演習林の集約化事業および森林管理の外部委託に向けた申請準備、柳戸農場ガラス温室新築に向けた各種取組みを行っています。さらに、岐阜市立岐阜女子短期大学との連携協定を締結する予定となっています。

このように関係者一丸となつてセンターの発展に向けて努力しておりますので、今後とも同窓の皆様方のご協力ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

(田中逸夫)

◆動物病院

各務同窓会の皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

本年度より共同獣医学科の鬼頭克也が動物病院院長に就任しました。19・20年度、21・22年度に続き3期目

(25・26年度)となります。どうぞ宜しくお願いいたします。

本院の使命は、臨床教育、診療、先端的臨床研究の3つを実践することにあります。21・22年度に腫瘍診療を特色とした高度先進病院にリフォームした結果、診療件数は20年度の6,600件から24年度には8,300件に増加し、診療収益が向上しました。また、病院スタッフは獣医学科の臨床教員16名、病院雇用の任期制助教2名、非常勤獣医師6名、動物看護師8名、事務職員4名がおり、さらに学外から客員教授・准教授をお迎えしております。このような安定した運営基盤の下でさらに施設整備に務め、地域に根ざした診療活動を展開するとともに、今後はより充実した臨床教育を推進し、新たな臨床研究に着手していく計画です。なお、今年度末に専任教員の驚異誠教授が定年退官します。先生の外科診療科でのご貢献に対し深く感謝申し上げます。

今後とも同窓の皆様方のご協力とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

(鬼頭克也)

◆野生動物管理学
研究センター

各務同窓会員の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

まずは、岐阜県からの寄附金により設置した「鳥獣対策研究部門」に関するご報告です。設置初年にあたる昨年度は、捕獲個体のデータやサンプル収集体制の整備、狩猟実態のアンケート調査、シカによる森林被害モニタリング調査などの課題を立ち上げ、精力的な調査・研究を展開しました。それらの成果は、すでに岐阜県の鳥獣対策に反映され、「岐阜県は鳥獣行政の先進地」との評価が県内外にて定着しつつあります。7月には宮城県議会の視察を受けましたが、これもその評価の現れと認識しております。

さらに今年度は、岐阜県から「野生動物と人との共生推進事業」を委託いたしました。これは、生物多様性の保全、絶滅危惧種の保護、外来種問題などに関する講演会を企画・実施する業務であり、野生動物管理学研究センターの重要な機能である教育や普及啓発の推進に直結する事業でもあります。5月18日には1回目のシンポジウム「これからの狩猟と管理捕獲を考える」が開催され、参加された一般市民の皆様からも高

い評価を受けました。この事業によるシンポジウムやセミナーにつきましては、本センターのホームページに案内が掲載されますので、機会があれば是非ともご参加ください。

なお、今年度からは、鳥獣対策研究部門に岐阜県職員のと田敏さんが常駐されることになり、教員2名、岐阜県職員2名、学術研究補佐員1名の5人体制が整いました。北海道大学人獣共通感染症リサーチセンターとの「特定共同研究」も引き続き採択となり、野生動物が関わる各種感染症の研究も系統的に展開しております。これらの体制のもと、本センターの教職員一同、岐阜県のみならず日本全国を視野に入れた活動を進めて行く所存でおります。同窓の皆様には引き続きご指導、ご鞭撻を賜りますよう、改めてお願い申し上げます。

(鈴木正嗣)

◆比較がんセンター

各務同窓会会員の皆様には比較がんセンターの近況をご報告申し上げます。

研究面では、岐阜大学発のオリジナル研究として、マイクロRNA・205のがん治療における基礎的検討を終え、本年度より犬口腔内メラノーマに対する臨床試験を開始して

教員の異動

定年退職

- H25. 3. 31 応用生命科学講座 食品科学 教授 金丸 義敬
- H25. 3. 31 応用生命科学講座 分子生命科学 教授 木曾 真
- H25. 3. 31 応用生命科学講座 環境分子科学 教授 棚橋 光彦
- H25. 3. 31 生物生産科学講座 応用動物科学 教授 伊藤 慎一
- H25. 3. 31 生物生産科学講座 応用動物科学 教授 大谷 滋
- H25. 3. 31 生物生産科学講座 応用動物科学 教授 川島 光夫
- H25. 3. 31 生物生産科学講座 応用動物科学 教授 吉崎 範夫
- H25. 3. 31 大学院連合獣医学研究科 教授 深田 恒夫
- H25. 3. 31 流域圏科学研究センター 教授 藤田 裕一郎

昇任

- H25. 4. 1 応用生命科学講座 食品科学 教授 中川 智行
応用生命科学講座 食品科学 准教授から
- H25. 4. 1 応用生命科学講座 分子生命科学 教授 上野 義仁
応用生命科学講座 分子生命科学 准教授から
- H25. 4. 1 生物生産科学講座 植物生産科学 教授 山本 義治
生物生産科学講座 植物生産科学 准教授から
- H25. 4. 1 生物環境科学講座 生物環境工学 教授 平松 研
生物環境科学講座 生物環境工学 准教授から
- H25. 4. 1 流域圏科学研究センター 教授 玉川 一郎
流域圏科学研究センター 准教授から
- H25. 4. 1 応用生命科学講座 環境分子科学 准教授 中村 浩平
応用生命科学講座 環境分子科学 助教から
- H25. 4. 1 生物生産科学講座 応用動物科学 准教授 楠田 哲士
生物生産科学講座 応用動物科学 助教から
- H25. 4. 1 生物環境科学講座 生態環境学 准教授 加藤 正吾
生物環境科学講座 生態環境学 助教から
- H25. 4. 1 生物環境科学講座 生物環境工学 准教授 大西 健夫
生物環境科学講座 生物環境工学 助教から

採用

- H24. 7. 1 流域圏科学研究センター 助手 吉竹 晋平
- H25. 4. 1 大学院連合獣医学研究科 教授 浅井 鉄夫
- H25. 4. 1 応用生命科学講座 環境分子科学 准教授 寺本 好邦
- H25. 4. 1 生物生産科学講座 応用動物科学 准教授 山本 朱美
- H25. 4. 1 応用生命科学講座 食品科学 助教 北口 公司
- H25. 4. 1 生物生産科学講座 応用動物科学 助教 日巻 武裕

います。現在、核酸医薬であるマイクロRNAによるがん治療は国内外で最も注目されている領域ですが、実用化に向けて検討を進めて参ります。また、わが国の動物医療分野では、がん対策に必要不可欠ながん登録制度は存在しません。そこで今年度よりその手始めとして、家庭犬のがん発生状況を詳細に調査分析することを目的に「岐阜県犬腫瘍登録制度」を発足させました。本制度の確立にはなお時間を要すると思いますが、犬がん対策の「岐阜県モデル」を提案し、全国に拡大できればと考えています。

教育面では、卒後教育の一環として各種講習会、比較腫瘍学セミナー

および比較腫瘍学シンポジウムを実施しております。本センターは設立から4年目になりますが、その活動をさらに加速させていきたいと考えております。個々の活動状況については、本センターのホームページURL: <http://www.lifn-u.ac.jp/~ccc/>をご覧ください。今後ともご指導とご支援をお願い申し上げます。

(丸尾幸嗣)

共同獣医学教育開発

推進センター

平成25年4月、岐阜大学・鳥取大学共同獣医学科の発足にあたり、本

センターは所属学部である岐阜大学応用生物科学部及び鳥取大学農学部に関連附属施設として設置されました。共同教育のマネジメントにより、共同獣医学教育を効率かつ効果的に推進することを目的としています。我が国の高等教育の充実策のひとつとして、連携による教育の機能強化が謳われているものの、本格的な学部レベルでの共同教育は獣医学が初めてとなります。そこで、共同教育の実践から得た情報、開発した方法等の公開も、本センターの使命としました。この活動を通して、所属学部だけでなく、広く我が国の大学に有益な情報を提供したいと考えています。

両大学の本センターは、2つの部門、共同教育マネジメント部門と実践的共同教育推進部門から構成されています。各部門には兼任で教授と准教授が1名ずつと、加えて支援スタッフとして事務職員及びIT関連技術職員が配置されています。共同教育マネジメント部門は、共同教育全般の調整、管理、検証、改善等を行います。実践的共同教育推進部門は、専門共同教育の調整・管理、さらにアドバンス教育の開発推進等を使命とします。

共同獣医学科では、距離に係わらず両大学で同じ教育を実施し、これまで以上に社会で活躍する獣医師を輩出しなければなりません。このた

めには、両大学の教育力を結集させ、充実した共同教育を推進する使命の共同獣医学教育開発推進センターの役割は極めて大きいと考えています。一方で、本格的な共同教育は未知の世界であり、教育のマネジメントという概念自体も日本の大学に根付いている訳ではありません。経費も含め、本センターの運営には様々な困難が予想されます。獣医学教育のなお一層の充実・発展のため、今後とも同窓会の皆様からの暖かいご支援とご指導を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

(杉山 誠)

新任教員のあいさつ

浅井 鉄夫



平成25年4月1日
付けで連合獣医学研究科 専任教員（教授）として着任しました。平成元年に本学大学院農学研究科（獣医学専攻）を修了し、全国農業協同組合連合会に約15年間、農林水産省 動物医薬品検査所に約10年間勤務しました。昨年度まで勤務した動物医薬品検査所では、抗生物質製剤の検定検査及び家畜における薬剤耐性菌のモニタリングを担当して、家畜由来細菌の薬剤感受性データを蓄積すると共に、薬剤耐性菌の性状解析や疫学研究に従事しました。

抗生物質は、人や動物の細菌感染症の治療薬として使用されてきました。抗生物質が医療や獣医療で使用されることで薬剤耐性菌が出現・増加し、薬剤耐性菌による感染症は、世界規模で取り組むべき問題の一つとなっています。動物の細菌感染症における薬剤耐性菌の分布やその耐性機構を研究して、薬剤耐性菌をコント

ロールしながら、抗菌剤を適正に選択・使用するために必要な情報の整備を進めていく予定です。

社会で仕事をする上では、自分の考えを説明でき、他人の意見を参考に修正・調和する能力が必要となります。これまでの民間機関と公的機関での勤務を生かして、国内外の社会的ニーズや背景などを学生と共有しながら、広い視野に立つて研究テーマへの対応力・説明力・解決力を備えた人材育成に努めていきたいと考えています。今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

寺本 好邦



平成25年4月1日
付けで応用生命科学課程 分子生命科学コースバイオマス変換学研究室に准教授として着任しました。私の専門分野は、材料化学に立脚したバイオマスのリファイナリー、構造設計、高機能化です。京都大学農学研究科にて「セルロース誘導体の構造物性

相関の解明と制御分解材料化」のテーマで学位を取得した後、広島

県呉市にあった（独）産業技術総合研究所バイオマス研究センター（現在は東広島市に移転）で「木質系バイオマスからのバイオエタノール製造のための前処理技術の開発」に3年間従事してから、出身の研究室で5年間助教を務めておりました。

出身地は東京ですが、父が転勤族であったことや、自らの進学・就職・転職で国内を転々としており、地域に根ざしたカルチャーにかねて興味があったところ、東西日本の文化の接点である岐阜で教育研究に従事できることをとても嬉しく思います。

応生の学生はとても真面目との評判を伺っておりましたが、講義では冷めておらず打てば響き、春のソフトボール大会とその打ち上げでの一体感のある盛り上がりを見ると、狭義の真面目さだけではない頼もしさを感じました。

これから研究室メンバーと共に学びながら、分子・分子集合体レベルから考えるバイオマス材料化学を展開し、密な原稿添削・発表指導を通じて世の中で自信を持って渡り合うための手助けをしたいと思います。皆様方にはご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

山本 朱美



平成25年4月1日
付けで動物栄養学研究室に准教授として着任致しました。新潟大学大学院自然科学研究科で学位を取得した後、財団法人畜産環境整備機構畜産環境技術研究所で畜産環境問題に関する研究・研修・分析業務に携わってきました。これまでは、家禽のアミノ酸要求量の検討、養豚からの窒素排泄量や臭気発生量を低減させる栄養的技術の開発を中心に研究を進めてまいりました。

源循環型・環境保全型畜産のあり方を学生とともに考えていけたらと思っています。

この岐阜の地は動物栄養学の教育・研究を進める上で大変魅力のある土地柄に思います。地道に、かつ着実に歩を進め、諸先輩の築き上げた岐阜大学の良き伝統を活かし、本学の教育・研究に貢献できよう研鑽を積む所存でございます。皆様方のご指導・ご鞭撻をいただきながら、ますます、精進してまいりたいと思います。どうぞ、よろしくお願い致します。

北口 公司



平成25年4月1日
付けで応用生命科学部食品生命科学コースに助教として着任しました北口公司と申します。私は名古屋大学の生命農学研究科で学位を取得しました。再び住み慣れた東海地方に戻って来られて大変嬉しく思っています。

これから、今までの経験と専門から、家禽や豚といった中小家畜を対象に栄養学的なアプローチから教育・研究を進展させていきたいと考えています。具体的には、産卵鶏のフェーズフリーディングをアミノ酸・ミネラル要求量から見直すことで生涯に渡る産卵成績を向上させることが最終的な目標です。また、畜舎から排出される窒素やリン量を簡易に推定する方法を確立することを目指します。これらの研究の中で、家禽・家畜にとって有効な飼料原料の探索を通して飼料自給率の向上や資

学位取得までは、家禽卵黄への抗体輸送機構の解析に従事していました。抗体を研究対象としていたものの免疫学に関しては体系だった知識や技術もなく、当時は自分

各務同窓会報

の専門と自負できる分野がなく思
い悩んでいたと記憶しています。

学位取得後は本格的に免疫学を学
びたいと思い、ポスドクとして医
学系の研究室に移りました。国立

長寿医療センター研究所（現国立
長寿医療研究センター）を経て、

東北大学加齢医学研究所へ異動
し、免疫応答を主に制御する免疫
抑制性受容体の研究に取り組みま
した。東北大学では、免疫学の研

究哲学や方法論に触れ、また助教
として学生の教育にも携わること

ができ、大変実りのある4年間を
過ごすことができました。岐阜大

学では、食品成分と免疫細胞との
関わりを解き明かし、農学分野に

も貢献できる研究を進めていき
たいと考えています。まだまだ未熟

者ではございますが、今後ともご
指導ご鞭撻のほどよろしくお願い

申し上げます。

日巻 武裕

平成25年4月1

日付けで、応用生

物科学部応用動物

科学コースに助教

として着任致しました日巻武裕と
申します。私の専門分野は家畜繁



殖学・生殖工学で鹿児島大学大

院連合農学研究科にて学位を取得

しました。その後、富山大学医学

部で2年間助教として勤務後、鹿

児島大学に戻り、7ヶ月間の学術

特別研究員を経て岐阜大学に着任

致しました。富山大学では異分野

のウイルス学講座に飛び込み、基

礎研究を通じて生物研究に共通し

た知識・技術を習得すると共に、

他学部との教育体制を肌で感じるこ

とが出来ました。専門分野におい

ては、家畜の生殖細胞を用いた体

外受精技術の高度化、胚発生過程

における特定遺伝子の発現制御、

体細胞核移植技術の高度化および

遺伝子改変動物の作出など様々な

研究を行ってきました。生殖工学

技術は、農学のみならず医・薬学

分野など幅広く活用され、さらに

iPS細胞の開発に伴い、再生・

移植医療への応用も期待されま

す。一方で、飛騨牛に代表される

畜産業が盛んな岐阜県の恵まれた

環境を活かし、畜産学の基盤研究

にも力を入れていきたいと思いま

す。これまでの研究を発展させる

ことで、優良家畜の効率的増産技

術を開発し、得られた知見を生産

現場へフィードバックすることで

地域産業への貢献を目指した教育

研究活動を行っていきたくと思え
ております。

まだまだ若輩の身であります
が、本学の発展に貢献出来るよう
精一杯尽力する所存です。ご指導
ご鞭撻のほど、よろしくお願い致
します。

教員・旧教員の受賞

土井 守 教授

楠田 哲士 准教授

第18回日本野生動物

医学会大会ベストポスター賞

平成24年9月3日

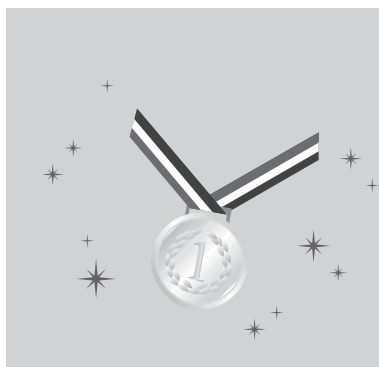
柳井 徳磨 教授

平成25年度「みどりの日」

自然環境功労者環境大臣表彰

（国際貢献部門）

平成25年4月23日



退職記念事業

終了の報告

を磨くことにお忙しい毎日を過ご
されております。金丸先生の益々
のご健康とご多幸をお祈りして、
退職記念事業報告とさせていただきます。

（矢部富雄）

「金丸義敬教授退職記念」

事業報告

応用生命科学課程食品生命科学
コースの金丸義敬教授は平成25年
3月31日をもって定年退職されま
した。

記念事業としては、平成25年

2月8日（金）午後1時より、

101多目的ホールにおいて「た

かがミルク、されどミルク（ミル

クタンパク質の不思議に魅せられ

てた道」と題する最終講

義が行われました。平日にもかか

わらず、現職の教員や学生はもと

より、遠方からも多数の卒業生が

駆けつけ、立ち見が出るほどの盛

大な最終講義となりました。

また、6月8日（土）には、ホ

テルリソル岐阜において退職記念

祝賀会が開催されました。先生の

岐阜大学着任以来の卒業生から在

学生まで92名の方のご参加をいた

だき、思い出を語り合いながらの

酒宴は大いに盛り上がりしました。

現在は、趣味であるテニスの腕

「木曾真教授退職記念」

事業報告

応用生命科学課程分子生命科学
コースの木曾真教授は平成25年3
月31日をもって定年退職されま
した。

最終講義は、平成25年2月8

日（金）14時30分より101番教

室において「糖鎖と共に38年（A

Journey to the Glyco World）」と

題して執り行われました。現職の

教員、学生はもとより、遠方から

も多数の卒業生にご参加いただき

盛大な最終講義となりました。講

義終了後は、102番教室にて懇

親会が催され、多くの卒業生が木

曾先生を囲んで、懐かしい話や近

況報告に話が咲きました。

また6月15日には、グラン

ヴェール岐山にてご退職記念の研

究室同窓会（しよくせい会）を行

いました。多くの卒業生にご参加

いただき、研究室の歴史を振り返

りながらの講演会と懇親会は、時

間が経つのを忘れるような楽しい

会でした。

先生はご退職後も、応用生物科学部特任教授を務められ、京都大学世界トップ拠点の岐阜大学サテライト主任研究員として研究指導に携わられる傍ら、連合農学研究科博士課程の指導教員として後進の指導にも当たられます。これまでの情熱あふれる教育、研究に改めて敬意を表するとともに、今後とも変わらぬご指導を賜ることを祈念して、事業報告とさせていただきます。

(石田秀治)

「棚橋光彦教授退職記念」

事業報告

棚橋光彦先生は平成25年3月31日をもって定年退職されました。

先生は23年にわたり岐阜大学で教育と研究に従事され、これらの功績により本学の名誉教授となられ、5月31日に本学講堂において催された創立記念日行事で名誉教授の称号が学長より授与されました。その折、研究室にも立ち寄られ、元気な顔を見せていただきました。現在、棚橋先生は高山市にあるきつつき森の研究所所長として引き続き研究生活に没頭しておられます。

先生のご退職を迎えるにあた

り、「環境に優しいバイオマス変換研究への取り組みーリゲニンの生合成機構の解明から、木材の破碎処理、圧縮成形加工、結晶転移を用いた各種繊維材料の形状記憶までー」という題目で最終講義が行われ、卒業生をはじめ多数の方のご参加をいただきました。また、ご退職後には卒業生主催による退職記念パーティが盛大に催されました。

棚橋先生の退職記念事業にご参加いただきました皆様方には深く感謝いたします。

(霞谷耕三)

「深田恒夫教授退職記念」

事業報告

連合獣医学研究科の深田恒夫教授は平成25年3月31日をもって定年退職されました。

退職記念事業として、平成25年2月8日(金)に応用生物科学部101多目的ホールにて、「置き手紙」と題する最終講義が行われました。現職の教員や学生はもとより、遠方からも卒業生が駆けつけ、盛大な最終講義が行われました。講義では、これまでの研究・臨床・教育生活について多岐にわたる話題を語られ、我々に対して

たくさんメッセージを残していただき、また、趣味に関するお話も拝聴することができ、先生の素敵なお人柄が表れた講義となりました。講義終了後、卒業生一同より深田先生そっくりのフィギュアを贈らせていただきました。その後、連合大学院会議室にて茶話会が催され、深田先生を囲んで昔話に花が咲きました。また、同日19時より岐阜キャッスルインにて定年退職記念祝賀会が開催され、多くの卒業生、教員、さらに獣医師会関係者にご参加いただきました。先生には祝賀会参加者よりお祝いの品として、旅行券を贈らせていただきました。ご協力いただきました皆様方には心から御礼申し上げます。

現在は大阪ペイ動物看護専門学校(大阪)の顧問および放送大学岐阜学習センター客員教授を務められております。先生のご退職に際し、これまでの情熱あふれる研究・臨床・教育姿勢に改めて敬意を表するとともに、今後の益々のご活躍を祈って止みません。

(柴田早苗)



退職予定者のあいさつ

退職を迎えて

鷺巣 誠



退職に際して在職中にお世話になりました皆様方にご挨拶申し上げます。

私は岐阜大学に2009年7月から日本獣医生命科学大学から動物病院専任教員として外科を担当するということで赴任してまいりました。岐阜大学にお世話になったのは5年間という短い期間で十分な貢献ができなかったという思いもありますが、信長ゆかりの新天地で様々な経験をさせて頂けたことは人生の1ページに刻むことができる有意義な人生経験を積ませて頂いたと感謝いたしております。鷺巣の地名が養老町の駅前の領域に残存しておりますが、私の先祖は戦国時代に今川に転居したのではないかと思われませんが、詳しい調査をいずれしてみたいと考えております。私が岐阜に来たのは、祖先のご縁もあると思われま

員として充実した設備を使用して肝臓を中心とした軟部外科症例の手術を実施することができました。このことは、本学における二次診療を提供する一翼になったのではないかと思います。教育・研究そして臨床を5年間にわたり実施して行く中で強く感じたことは学生のまじめさと優秀さでした。基礎能力が高くしっかりと物事を理解して確実に仕事をしていくことができる学生たちでしたが、彼らに教育を提供した岐阜大学の先生方の教育に対する真面目さそして真剣さを彼らから読み取ることができました。退職に際して残念なことは人間味あふれる学生たちとの交流が断たれることですが、5年間という短い時間ではありましたが楽しい時を過ごさせて頂きました。岐阜大学は鳥取大学と共に学生教育を実施していく体制となり、更なる獣医教育の充実が可能となりました。これを機会に学生たちの意識を日本ばかりでなくアジア・世界に向けてさせたいと思っています。

最後に岐阜大学動物病院、応用生物科学部および各務同窓会の一層のご発展をお祈り申し上げ退職の挨拶とさせていただきます。

退職記念事業の

お知らせ

鷺巣誠教授の

定年退職のお知らせ

鷺巣誠先生は、日本獣医畜産大学修士課程を修了後、静岡県清水市にて動物病院を開業されました。その後カリフォルニア州立大学デービス校にPh.D.を取得され、昭和61年に日本獣医畜産大学獣医畜産学部講師としてご着任されました。助教授、准教授を経て平成21年には岐阜大学応用生物科学部教授として転任され、平成26年3月をもって定年退職されます。岐阜大学では、講義・実習に加えて動物病院での診療業務にあたられました。門脈体循環シャントや胆嚢粘液嚢腫といった肝胆道系疾患を中心とする軟部外科を専門とされ、数多くの症例を担当されました。その一方で、オゾン療法、針治療および光線療

法などの普及にも尽力されました。

先生のご退職を迎えるにあたりまして、最終講義を平成26年1月24日（金）午後3時より、応用生物科学部101多目的ホールにおいて開催いたします。皆様方と共に最終講義を拝聴し、長年のご功績とご指導に感謝の意を表したいと存じます。多数のご参加をお待ち申し上げます。また講義終了後、午後4時より第1会議室において茶話会を開催する予定です。

（柴田 早苗）

同窓会長賞受賞者

同窓会長賞は、毎年1回、優秀な学生の日頃の努力を顕彰する目的で、平成19年度に設立されました。平成24年度も、各課程および専攻からの推薦を受けて、応用生物科学部および応用生物科学研究科の学生の中から、次の受賞者が決定されました。受賞者には心よりお祝い申し上げます。また、なお一層の

ご活躍を期待いたします。

受賞者（敬称略）

食品生命科学課程

守屋 彩子

生産環境科学課程

島田 かなえ

獣医学課程

鈴木 万祐子

資源生命科学専攻

廣瀬 麻衣

生物環境科学専攻

権田 彩

守屋 彩子

この度は同窓会長賞という素晴らしい賞を頂きまして、誠に光栄に存じます。岐阜大学で4年間充実した日々を送り、学生生活最後にこのような賞を頂くことができ、熱心に指導してくださった先生方、共に高め合い励まし合った友人達、常に支えてくれた家族に心から感謝致します。

今後の大学院での生活においては、4年間で身につけた知識と技術を生かし、自らの夢でも

ある新薬の開発に向けて価値ある研究成果を出せるよう、日々努力していきたいと考えております。

島田 かなえ

この度は、同窓会長賞という素晴らしい賞をいただき、ありがとうございます。学生生活の最後に、このような賞をいただくことができ、社会人としての生活を始める上で大変励みになりました。

幼稚園の時から夢であった現在の職業に就くことができたのも、大学時代に熱心に指導してくださった先生方、周りでサポートしてくださった先輩、友人、そして家族のおかげだと思っております。心から感謝いたします。

社会に出て、難しい課題にぶつかるとありますが、岐阜大学で学んだこと、経験を活かして乗り越えていきたいと思えます。

鈴木 万祐子

この度は同窓会長賞をいただき、心より御礼申し上げます。

熱意を持って指導して下さった先生方や、共に成長し合う事の出来る友人達、そして家族の支えのおかげと感謝しています。たくさんの人に出会い、貴重な経験を重ねることができた岐阜大学での六年間は私にとつてかけがえのない財産です。この大切な宝物を糧とし、名誉ある賞の名に恥じぬよう一層の努力をする所存です。どうか今後とも変わらぬご指導のほど、よろしく願ひ申し上げます。

廣瀬 麻衣

この度は同窓会長賞をいただきまして、誠にありがとうございます。これも、常に生徒のことを考え熱心にご指導賜りました先生方、共に支え合った研究室のメンバー、そして家族のお陰であると、心より感謝申し上げます。充実した環境で研究に

没頭することができ、岐阜大学で過ごした貴重な6年間は、私自身を心身ともに成長させてくれました。今後は社会人として、これまでの経験を活かしながらも、日々精進を重ねていく所存です。

権田 彩

この度は同窓会長賞という素晴らしい賞をいただき、誠に光栄です。岐阜大学で過ごした6年間は、私にとってかけがえのない時間として心に残っています。このような賞をいただく機会を得、先生方、友人、家族の支えを改めて認識することができました。本当にありがとうございます。学生生活の最後に、このような素晴らしい賞をいただくことができ、大変な励みになりました。

最後になりましたが、交流を持ってくださいました皆様に感謝いたしております。ありがとうございました。

吉寄基金

平成24年度受領者報告

微高压炭酸ガスを用いた 殺菌・保存・流通技術

岩橋 均

吉寄清己研究支援金より、「微高压炭酸ガス殺菌・保存・流通技術データシート作成に関する研究」の課題で御支援を頂きました。未だ赴任して二年目ということで、実験施設が不備であるため、本基金は当初より備品の購入に充てる事として申請させていただきました。おかげで、学生に危険性のある古い備品を危険性のない備品に更新することができました。また、当該備品を利用して、炭酸ガス殺菌効果に関するデータシートの作成を行うことができました。意外と思われるかもしれませんが、応

用研究というのは地道であり、基盤的なデータを積み上げなければ本当の実用化は難しいと考えております。本支援金を利用して基盤的なデータの取得を進めることができました。当該成果は国際学会において発表させていただいております。当該備品は、本来の目的はもとより、「初め心忘るべからず」のシンボルとして、当研究室で長く利用させていただきたいと考えております。

C19 吉寄清己研究支援 寄附金の今年度受領者

「吉寄清己研究支援寄附金」は昭和19年9月に農芸化学科を卒業された吉寄清己氏から現「応用生命科学課程」の教員に向けて、課程の名声を高めることという条件で、個人的に研究を支援していただいているものです。平成19年度から支援を始めていただき、今年度で7回目を迎えました。本年度を含めて、支援を受けた人数は延べ9

名、支援金総額は800万円に上ります。この種の研究支援制度は他に類を見ず、当課程の誇りとしているものです。

本年3月に第7回吉寄清己研究支援寄附金への募集を行ったところ、5件の応募がありました。いずれも応用生命科学課程の特徴を表した研究計画でありましたが、選考委員会で審議しました結果、今年度は、一般研究として上野義仁教授の研究課題「microRNA創薬を指向した細胞膜透過性パイ電子充填型人工核酸の創製」に100万円、また、奨励研究として中村浩平准教授の研究課題「微生物燃料電池のための電極表面修飾技術の開発」に50万円が授与されました。

支援を受けた教員は、本研究支援金の趣旨を念頭に、課程の名声を高めるために、実験や解析を繰り返し、日々奮励努力しているところです。

(後藤清和)

支部会員からの便り

復興地を訪ねて

岩手支部

岡田 幸助（V大15）

東日本大震災から2年4ヶ月が経ちました。しかしまだまだ復興が進んでいません。資金は用意されていても、計画の決定が遅れ、実行に移せないところが多くあるようです。被災地は何も無く息をのむ光景です。被災した家は取りのけられ広い更地が広がっています。基礎の土台だけがそこに家があったことを語っていました。

陸前高田では4月にワカメの収穫期で人が足りないのです。緊急に来て欲しいというので、私で役立つかどうか分かりませんが



写真・復興のシンボル「鮭のぼり」、ワカメの塩蔵

が、とりあえず行ってみました。まだ寒い頃で、カッパの上にカッパを着て完全武装をして、ワカメを釜で茹であげたところを、海水で急速に冷却する作業を手伝いました。茶色いワカメが茹で上がると、さつと緑になります。それを厚いゴム手袋をした手でかき混ぜるのです。冷えたら一抱えをトレーに入れて、次の工程へ送ります。それだけの単純作業ですが、プロの漁師さんに混ざって素人が担当するので、多分足手まといになったと思います。結構きつい作業でした。その後、ワカメは回転するローラーで塩をまぶし、大きな四角いタンク塩蔵していました。この地区で亡くなった人は1,555人、行方不明223人（死亡届205人）で、ワカメは取れるのですが、収穫期は短く限られていて、平日に手伝える人が足りないのが現状のようです。

行つた時には、ブルドーザーが起こした土から大きな石を取り除く作業でした。秋に種を播くのだそうです。一輪車で石を運ぶのも重労働です。あまり一輪車に積みすぎて動かなくなつたところを、千葉県から来た若者が進み出て、運んでいったのは、格好良かったです。石をどけた土地に菜の花が満開になる来年の春を夢見ています。5月の時より、随分堤防のダムや復興住宅の建設が進んでいて嬉しくなりました。

宮古市の田老地区では第2防潮堤が無惨にも崩壊している様子には息をのみました。人口わずか4,570人のこの地区で181人も人が死亡・行方不明になっています。この津波で母さんを亡くしたボランティアアイドさんの説明で田老の人々の苦勞と気持ちがよく分かりました。

これからも震災を経験した方々を忘れないで「支援ではなく、復興地と共に」過ごしていきたいと思っています。（7月9日寄稿）

思い出すことも

（その二）

富山県支部長

温井 喜彦（A大8）

学生時代いろいろなアルバイトをし、社会勉強にもなった。

酒造会社、デパート、スケートリンクでの靴の貸出し、選挙事務所でのアルバイト、家庭教師などである。

当時、一日八時間働いて日当三百円から三百五十円であった。家庭教師は週三回、月十二回教えて月謝千五百円。大卒の初任給が月一万千円弱の時代である。また、日本育英会の奨学金を月二千元、四年間で九万円の貸与をうけた。卒業してから毎年五千元ずつ返済し、十八年間で完済した。

当時、岩波文庫本が一冊百円、薄いものは八十円、六十円、四十円というものもあった。奨学金で月二十冊も買え、大変有難かった。

選挙のアルバイトは、参院全国区に出馬した迫水久常（昭和二十年八月、太平洋戦争での連合国のポツダム宣言を受託すること）を決定し、八月十五日正午、国民に玉音放送する事を決めた「御前会議」を主宰した当時の内閣書記官長（の岐阜市の選挙事務所でのアルバイトであった。学生数名で「七つ道具」の「標旗」一本を持って、徒歩で市内を回り、拡声機を使って支持を訴えるものであった。

夏の猛暑の時期で、神社や寺の本陰で適宜休憩をした。朝、選挙事務所を出て、夕方に帰ると、「君達は一休どこを回っていたのか、まるで雲をつかむようなものだ。」と係の人に苦言を呈された。当時、衆院岐阜県選出議員は大

野伴睦、野田卯一などであった。

家庭教師は、中学生の男の子を教えた。数学が五十点前後であったものが、名？家庭教師によってめきめき力をつけ、九十点から九十五点をとるようになった。

後期高齢者の仲間入りをし、こうした学生時代の思い出や七十年間の人生のいろいろな出来事が走馬灯のように脳裏を駆けめぐる。

愛知県各務会と愛知各務会の近況

岡田 洋明（E大35）

愛知県各務会は、昭和32年に愛知県庁に勤める農業土木職員の親睦を図るために発足したもので、その後、退職された方も多くなり、平成14年に会の見直しを行い、「愛知県各務会」は愛知県に在職している農業土木職員で構成するとし、県職員を退職した方及び愛知県土地改良事業団体連合会の職員は別途「愛知各務会」を設立し、それぞれで活動を行うことになりました。今年度は、両会併せ近年にない8名もの新入会員を迎え入れて、現在の会員数は愛知県各務会が77名、愛知各務会が56名となっております。年1回の総会は、両会別々に開催していますが、懇親会は、

各務同窓会報



先輩と後輩が一堂に会して親睦を図ることができるよう、両会合同で立食形式により行っています。また、この席には、毎年、大学側からも先生のご出席を頂いております。

平成25年度の懇親会は5月18日に名古屋市熱田区の賀城園で行われました。懇親会には、来賓として小林満元農学部長と千家正照教授の両先生にご出席を賜り、会員96名の参加により開催されました。会は愛知各務会金丸行雄会長（E大11・S38卒）と愛知県各務会近藤文男会長（E大27・S54卒）の挨拶により開始されました。毎年欠かさずご出席頂いている小林先生は、96才とは思えない元気なお姿で挨拶を頂き、新入会員の自己紹介では「声が小さい」と激励される一幕もありました。また、千家先生からは、ご挨拶を兼ねて大学の近況をご報告頂きました。

懇親会は、大先輩の木村昭彦氏（E大1・S28卒）の乾杯で始まり、予定していた2時間が、瞬く間に過ぎ、最後は愛知県各務会平野隆久副会長（E大27・S54卒）の万歳三唱により、来年度の再会を約束して散会いたしました。

岐阜県高等学校支部

高畑 清樹（A大24）

岐阜県高等学校支部（各務会）は、岐阜県内の高校、特別支援学校、県教育委員会に勤務している者及び退職者で組織されています。主に、理科と農業科の教員であり、現在会員数は、現職七十七名、退職者九四名、計一七一名です。近年の新規採用者数の減少から、現職教員の比率が年々低下し、退職者の方が多くなってきました。

平成二五年度総会・懇親会を六月二九日（土）に岐阜キャッスルインで開催しました。会員三三名が参加し、ご来賓として、大学から向井讓教授、村瀬哲磨教授をお迎えし、大学の近況等を伺うことが出来ました。また、当支部を發足していただいた山川充夫先生（昭和二二年卒）始め諸先輩からは、現職会員を激励していただくことが出来ました。



当支部では、岐阜高等農林学校校歌、凜真寮歌、農大舞謡等、大学ゆかりの歌を代々引き継いで来しました。おそらく、この三曲をきつちり歌えるのは当支部だけではないでしょうか。ちなみに、私は、今は無き凜真寮の寮生でした。また、高等農林時代の校歌は、当支部の大先輩方から教えてもらいました。

今まで岐阜大学の校歌はありませんでした。岐阜高農校歌「我ら多望の春にして」が、岐阜大学愛唱歌に制定されたこと聞きます。現在、大学ホームページで試聴することが出来ますが、「静かに強く備えん」「祈らんよりも培え」など、その歌詞は不易であり、私達に生き方を教えてくれます。これらの歌は母校と同窓生をつなぎ、母校への

愛着が強まります。母校のさらなる発展を期待します。

7年ぶりの総会の開催

東京E科現役会

林 春奈（S大15）

中央官庁の本省庁に在籍した者を会員とする東京E科現役会では、2月6日に千家正照教授をお招きし、およそ7年ぶりに東京都内にて総会を開催しました。総会には東京近辺に在住の会員9名が集まり、千家教授から大学の近況報告を受けるとともに、大学在学中の話題について話したり、農業農村整備等の専門分野に関する各々の考えを語るなど、同窓生ならではの会話で大いに盛り上がりました。

何年もの間、総会が開催されていませんでしたが、その間も有志を募って親睦会を行っており、昨年の12月には忘年会を行いました。写真はその時に東京駅で撮影したものです。送別会で話題となつ



東京E科現役会親睦会後 東京駅にて（2012.12）

たのは、東京E科現役会会員で初めて大使館勤務を行う者が出たということでした。しかも、2名同時に。彼らは、3月中旬からパキスタンとコロンビア大使館の書記官として勤務しており、現在海外で活躍されています。総会には、不安と期待を胸に旅立たれる彼らの背中を押すためにも良い機会であると考え、会長と話し合いを重ねながら開催に踏み切りました。

総会では、大使館勤務を控える2名の抱負を伺うとともに、東京E科現役会の今後についての話し合いも行いました。まず会則を説明し、改正点等について提案するとともに、新たな役員を選出しました。また、毎年、会員名簿の配信を行うとともに、年に1度の総会に加え今後も親睦会を適宜開催する旨、合意しました。現在31名の会員がいますが、全国津々浦々で活躍されているため、全員が一堂に会することは難しい状況ですが、これを機に東京E科現役会を盛り上げていく所存です。

会員の受章

高橋 実（A大13）

旭日双光章

平成24年11月3日

山本

雅義（V大4）
瑞宝小綬章

平成25年1月1日

各務同窓会報

重野嘉吉先生を偲んで

重野嘉吉先生は、平成二十五年二月十九日、九十二歳にてご逝去なさいました。一月から体調を崩され入院加療中でしたが、同月末お見舞いに伺ったところ快方に向かわれておられるご様子であられたため一安心した矢先のこと、大変驚くとともに人生の先達を失ってしまったという深い悲しみの念を禁じ得ません。

先生は、昭和十六年三月岐阜高等農林学校農学科を卒業後、同年四月農林省播磨種畜場に助手として採用され、同十七年二月から四年有余の軍隊生活を経て、昭和二十二年四月岐阜農林専門学校講師として着任されました。昭和二十五年三月岐阜大学農学部助手、同二十五年十月同講師、同三十五年一月同助教、同五十年三月岐阜大学農学部教授となられ、同五十九年四月一日停年により退職、同年四月一日に岐阜大学名誉教授の称号を授与されておられます。

この間、先生は、永年にわたり畜産学、特に栄養や飼料など家畜飼養に関する研究と教育に精励され、畜産学概論をはじめ、家畜学、家畜飼養学、家禽飼養学、

飼料学並びに家畜管理学を講義されるときにも、畜産学実習を担当して、多くの優秀な人材を育て社会に送り出されました。また「豚の繁殖に関する研究」、「サイレージ調製とその利用に関する研究」、「鶏糞の飼料化に関する研究」、「鶏における脂肪蓄積および脂質代謝に関する研究」等、家畜栄養学や家畜飼料学に関して多くの研究業績を残されました。学内の管理運営に関しては、本学に着任した昭和二十二年から同五十三年までの三十一年間の永きにわたり岐阜大学農学部付属農場畜産部主任としてその管理運営に携わり、ともに、昭和五十五年四月から同五十九年三月までの四年間同農場長として農場全般の管理運営に尽力され、農学部的发展に大いに貢献なさいました。

一方、学外にあつては、日本畜産学会東海支部評議員をその設立以来永年勤め、発展に努められるとともに、岐阜県における畜産コンサルタント事業に精力的に参加され地域農業の発展に多大な尽力をなされました。

一月にお目にかかったときに、いつものやや高いお声で「俺は良い同僚や良い学生に恵まれた。俺は幸せ者だ」と何回もおっしゃっておられました。「私達は重野先生という良い先達、良い

先生に恵まれた。私達は幸せ者だ」と思いながら、皆様とともに先生のご冥福を心よりお祈りしたいと思います。

(大谷滋)

田島俊雄名誉教授を偲んで

田島俊雄先生は平成25年2月23日肝臓癌により87歳でご逝去されました。

先生は昭和23年3月東京大学農学部林学科をご卒業後、同大学特別研究生として前・後期を修了され、昭和28年6月東京教育大学助教授に赴任されました。そして、昭和52年4月川村一次教授退官後、岐阜大学農学部木材化学研究室の教授として着任されました。平成元年3月に定年退職されるまで12年間、林木の生長と材質との関係、紙パルプの使用する木材の部位による強度と物理的性質の解明およびキノコ成分と栽培について研究に従事され、広範な分野において優れた研究成果を発表されました。この間、数多くの優秀な学部卒業生および大学院修士を社会に送り出されました。また、外国人留学生も積極的に受け入れられ、学位取得、研究指導を通じて国際交流にも尽力されました。

当時は大学での公開講座がスタートした時期で、農学部の公開講座として「キノコの世界」を企画され、研究成果を広く社会の人に講義し、社会貢献もされました。公開講座の先駆けとして大変な好評でありました。

その後、公開講座が大きく発展した切っ掛けとなりました。管理・運営面では、教務厚生委員長、図書編集委員長をはじめ各種委員会の委員を務められ学部運営に寄与されました。昭和61年4月から昭和63年3月まで農学部附属演習林長を務められ、演習林の管理・運営と充実に大きく貢献されました。学会関係では日本林地肥培研究会幹事、日本木材加工技術協会保存部会幹事、日本木材学会常任理事、日本林学会中部支部会理事、紙パルプ技術協会木材科学委員などを務められ、学会および協会の活動と発展に大きく貢献されました。岐阜県地域エネルギー開発利用事業化可能性検討委員会委員、岐阜県工業技術振興会議委員なども務められ地域社会の発展にも尽力されました。田島先生からお受けした多くの薫陶を偲びつつ、皆様とともに心からご冥福をお祈りしたいと思います。

(篠田善彦)

仲野良紀先生を偲んで

仲野良紀先生は、平成25年4月8日に逝去されました。享年79歳でした。

先生は昭和32年3月に東京大学農学部農業工学科を卒業後、農林省農業技術研究所農業土木部（現農業・食品産業技術総合研究機構農村工学研究所）に入所され、その後、造構第一研究室長を経て昭和55年7月に岐阜大学農学部教授として着任されました。この間、平成9年3月に停年退職されるまで学生の教育と研究に心血を注がれ、多くの優れた人材を社会に送り出すとともに、教務厚生委員長、学生部長、大学院連合農学研究科長などの要職を歴任され、またご退職後も岐阜大学フェローを務められ、大学の発展にご尽力されました。

先生は泥岩の軟弱化メカニズムと農業水利施設的设计に関する一連の研究により、昭和50年に農業土木学会学術賞を、平成9年に地盤工学会研究業績賞を、また平成14年に日本農学賞を受賞されました。先生の教育・研究に対する情熱は並々ならぬものがあり、学生部長、研究科長を務められていた間も、農業用

各 務 同 窓 会 報

ため池での現地実験を毎年泊まり込みで行っていたのは記憶に新しいところです。また、大学での教育のみならず、国際協力事業団の集団研修で長年にわたって講義をされ、発展途上国の当該分野の技術者養成に貢献し、重要な責務を果たされてきました。

ご退職後の先生は、国際会議に奥様とご一緒に行かれていたそうです。また、趣味の家庭菜園を通してご家族とのふれあいも大切になさっていました。研究に対する厳しさと人間としての優しさを兼ね備えた先生よりお受けした数々の薫陶を偲びつつ、ここにご冥福を心よりお祈り申し上げます。

(清水英良)

叙 位 ・ 叙 勲

尚、先生方には、次のとおり叙位・叙勲がありました。

重野 嘉吉 名誉教授

(A 15)

従四位 瑞宝小綬章

(平成25年2月19日)

田島 俊雄 名誉教授

従四位 瑞宝小綬章

(平成25年2月23日)

事務局からのお知らせ

同窓会員の皆様には日頃より暖かいご支援・ご指導を賜り、誠にありがとうございます。東日本大震災の発生から2年が経過し、今なお放射能問題等解決を見ていない問題が残っております。また、今年夏は猛暑が続いた後、各地で集中豪雨の被害が報道されております。皆様におかれましては、お変わりはありませんでしょうか。

さて、応用生物科学部寄付金制度につきましては日頃より同窓生の皆様からご協力を頂き感謝申し上げます。本年度は会員の増員を図るため、入学式における保護者懇談会時に保護者の方へ同窓会入会の勧誘活動を行っております。

また、寄付金の手続きにおいて会計処理までに非常に長い時間を要し、迷惑をお掛けしておりましたところ、事務手続きを簡素化致しましたので、申し込みから振込用紙の送付までの時間短縮を図ることができました。なお、寄付金の使途について同窓生の皆様のご要望を今後承ることができるようになっています。同窓生の皆様におかれましては引き続きご協力の程宜しくお願い致します。

連絡先が不明の支部について調査をしております。特に福島県支部につきまして連絡先がわかりましたらお知らせ頂けますようお願い致します。

本会誌の誌面を通して年度毎に学部並びに大学の近況や会の事業等についてご報告をさせて頂いておりますが、全国の各支部や会員の活動に関する記事につきましてもより積極的に掲載し本会報が同窓会一支部一會員間の輪を育み広げる情報誌としてお役に立てるよう微力ながら努力させて頂いております。年に一度の発行ですので時期は限られておりますが、各支部や会員の皆様のご投稿をいつでも受け付けさせて頂いておりますので、ご遠慮なくご投稿頂きますよう宜しくお願い致します。

最後になりましたが、これまで長年にわたり同窓会名誉会長として多大なるご尽力を頂きました金丸義敬先生が定年退職によりご勇退され、後任として福井博一先生が新名誉会長に就任されました。金丸先生には在任中はご高配を賜りまして深謝申し上げます。会員の皆様の益々のご健勝とご発展を祈念致します。

寄附金のお願いについて

平成 20 年から始めました寄附金制度は、趣意書にもありますように継続して行っていくしますので、本年度もご協力の程よろしくお願いいたします。

詳細は同封の「応用生物科学部への寄附金拠出のお願い」及び「趣意書」をご覧ください。

お申込みいただきました2週間程あとに、応用生物科学部より、郵便局の振込用紙を送付いたしますので、ご入金いただきますようお願いいたします。

申込書の記入方法

* 申込書に必要事項をご記入の上、下記の住所へお送りください。

〒501-1193 岐阜市柳戸1-1
岐阜大学応用生物科学部学務係 気付
岐阜大学各務同窓会事務局

詳しくはこちらを確認してください。

【申込書】

[illegible]

第 94 号

平成 25 年 11 月 29 日

岐阜大学各務同窓会

〒501-1193 岐阜市柳戸1-1

TEL (058) 293-3411

FAX (058) 293-2841

振替 00820-9-12742

<http://www1.gifu-u.ac.jp/~kagami01/>

e-mail ob-abs@gifu-u.ac.jp